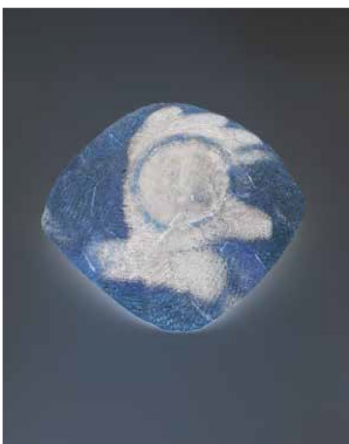


湖の目と山の皿

2019.9.21 sat — 11.24 sun

会期中無休

八ヶ岳美術館
原村歴史民俗資料館



津田直写真展

Nao Tsuda Photo Exhibition

主催：八ヶ岳美術館、原村、原村観光委員会
協賛：マウツラフ建設株式会社、諏訪信用金庫、たてしな自由産物
協力：マウツラフ建設株式会社、諏訪信用金庫、DAIJI PILAS、
evan eva、PILBERSKY、Tama Ishii Gallery Photography / Film、TCX
八ヶ岳美術館 奥野原駅前原村17217-1611 TEL 0266-74-2701
開館時間：9:00～17:00 入館料：大人510円 小人280円

津田直写真展「湖の目と山の皿」

これまで国内はもとより、モロッコの砂漠やモンゴルの山峡、アイルランドの島嶼、北極圏、バルトの国々など世界を旅し、独自の風景論を唱えてきた写真家・津田直。それは「消えゆくものを、写真を通して繋ぎとめる」ための道程でもあったと自ら語るように、デビュー以来20年に亘り展覧会や写真集の刊行を中心に活動を続けてきました。本展では、津田が9年前から日本の基層文化を見つめ直すため、始めたという縄文歩き過程で出会った縄文時代の遺物や風景を撮影した「Grassland Tears(草むらの涙)」シリーズより、とくにハケ岳山麓、及び諏訪湖周縁を中心とした写真、約25点を展示します。津田は、数千年の時を経て、現代に受け継がれてきたこれらの遺物をモノとして捉えるのではなく「形ある靈魂」であり、「循環する命」そのものだと考えます。又、写真という表現媒体を通じて、遺物を写し撮る際に、時としてその姿を紐解くべく像の階調を反転させた作品を制作することがあります。反転させた世界＝ネガの世界のうちに、暗闇には光が灯り、光には暗闇が仕舞われているのだと語ります。

又、展示ではこれまで雑誌「PAPERSKY」にて連載を行ってきた「Jomon Fieldwork」よりパネル展示を行います。会場では、作家が全国の縄文遺跡を自ら歩き、写真と言葉で綴ってきた誌面のバックナンバーもご覧頂くことができます。そこは私たちに縄文を見つめ直し、その遙か遠い時代と現代社会の繋がりと関係性を考えるきっかけやヒントを与えてくれる場になるかもしれません。

Event

「写真家・津田直と共に巡るハケ岳山麓縄文ツアー」

津田直と共にハケ岳美術館、原村埋蔵文化財収蔵庫の特別見学、阿久の森を散策。途中昼食休憩あり。美術館では展示について作家より解説を聞くことができます。

日時:2019年10月26日(土) 11:00~15:00頃(昼食含む) 参加費:2500円(入館料込み、昼食代は各自負担。)

集合時間・場所:10:40茅野駅東口ロータリー、もしくは11:00ハケ岳美術館

「Jomon Fieldwork in ハケ岳 スライドショー&トークイベント」

毎号ユニークな切り口で縄文を伝えている「縄文ZINE」編集長の望月昭秀さんをゲストにお迎えして、ハケ岳山麓の縄文から現代、未来へ向けて想いを巡らせ対談します。

日時:2019年11月16日(土) 13:30~15:00 参加費:1000円(入館料込み) ゲスト:望月昭秀(「縄文ZINE」編集長)

望月昭秀 株式会社ニルソンデザイン事務所代表/「縄文ZINE」編集長。著作『縄文人に相談だ』、『縄文力で生き残れ』、『縄文ZINE(土)』。雑誌「Discover Japan」で縄文をテーマにした「Jomon Fieldwork」を2011年より連載中。

[イベントのご予約、お問い合わせ] ハケ岳美術館 Tel: 0266-74-2701 email: yatsubi1@po19.lcv.ne.jp

Profile



津田直

写真家。1976年神戸生まれ。世界を旅し、ファインダーを通して古代より綿々と続く、人と自然との関わりを観察し続けている。文化の古層が我々に示唆する世界を見出すため、見えない時間目に向けて、2001年より多数の展覧会を中心に活動。2010年、芸術通関新人賞美術部門受賞。大阪芸術大学客員教授。主な作品集に『SMOKE LINE』、『Storm Last Night』(共に赤々舎)、『SAMELAND』(limArt)、『Elhias Forest』(handpicked)がある。雑誌「PAPERSKY」にて縄文をテーマにした「Jomon Fieldwork」を2011年より連載中。

PAPER
SKY

『PAPERSKY』とは…コンセプトは地上で読む機内誌。旅先に向かう翼上で手にする機内誌のように、世界各地のさまざまなストーリーをちょっと違った視点から紹介する旅雑誌です。



「Grassland Tears」シリーズより
© Nao Tsuda, Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film

ハケ岳美術館 原村歴史民俗資料館

ハケ岳美術館の建物、文化彫刻家・村野藤吾の設計によるもので、日本建築家協会25年賞を受賞しました。曲線を用いたドーム型で、天井はレースのカーテンの絞り吊りになっています。落着いた柔らかな明かりの中で作品をゆったりとご覧いただけます。



◎ご利用案内

開館時間 9:00~17:00(入館16:30まで) 休館日 年末年始、臨時休館を除き年中無休

入館料 一般(高校生以上) 510円(460円) 小・中学生 250円(200円)

※(内)は20名以上の団体料金。諏訪市町村の小・中学生はバスポート、図書カード、学生証などの提示により無料で入館できます。

◎常設展

美術作品:清水多嘉示(彫刻・絵画)、津金雀仙(書)

考古学資料:国指定阿久遠跡をはじめ、市内の遺跡から出土した縄文土器・石器を展示。

〒391-0115 長野県諏訪郡原村17217-1611 Tel/Fax 0266-74-2701

e-mail yatsubi1@po19.lcv.ne.jp http://www.lcv.ne.jp/~yatsubi1/

Facebook, Twitterでハケ岳美術館の最新情報をご覧いただけます

